

みやけの風

第 50 号

平成13年(2001年)10月13日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

「みやけの風も、これで50号だっちな」「イエー、まさかよ」「ま～ったく長く続いたもんだな」「だからよ。そんだけ避難も続いているってことだじよ～」「ふれあい集会も3回がすんじまったからな～」「でも、ああして集まるってことは大事じゃねえ?」「おうよ、集会で出てた『自分も大事だがみんなも大事』って話は、おれもそう思ったぞ」「そのために何をどうしていくかが、なかなか難しいとこだじな」「たまにゃあ、島民連絡会にも出てほかのモンの意見でも聞いてみんカシ」「それがいいじゃねえ?」「今月は21日だっけな?」

みんなの声

(1)

八王子市長房団地にお住まいの鈴木豊さんから、避難先の地域で配られている「高尾の駐在所だより」を送っていただきました。坪田の駐在さんだった假屋さんが発行しているもので、第2面の「かあちゃんの駐在日記」が三宅の生活の情景が目に浮かぶような内容なので、駐在さんの許可を得て、掲載させていただきます。

「避難も長くなって皆さん大変でしょうけれど、こうやって見守っているしか出来なくて。でも、島でお世話になった皆さんに、思っている気持ちを伝えられれば。」との駐在さんの「かあちゃん」の談でした。(東京センター)

いつもなら、三宅島では、『タカベ』釣りで、桟橋がにぎわう時期です。

タカベは、体長20センチ前後の白身の魚で、煮てよし、焼いてよし、揚げてよし、刺身もよしと、島では重宝されていました。それに、桟橋で、『サビキ』(1メートルくらいの釣り糸に、釣り針が何本もついてい)を使って釣れるので、子どもでも楽しめす。

でも、サビキには参りました。夏の観光客に対応するために、派遣された機動隊の人を、休みの日に坪田漁港に連れて行った時のことです。

サビキを垂らすと、すぐにボラがかりました。ところが、このボラは往生際が悪

!!

阿古会では、江東区民祭りの会場で行なう「三宅島島民支援観光物産市」をお手伝いしてくださる島民の方を募集しています。お近くにお住まいの島民の方、一緒に楽しくやりませんか?また、21日(日)には11時より噴水広場にて、先着500名様に『おしるこ』のおふるまいがあります。どうぞ、遊びにいらしてください。

日 時：10月20日(土)、10月21日(日)の2日間
9:30～16:30(いずれか1日でも可)

場 所：江東区木場公園「ふれあい広場」(地下鉄東西線木場駅東口)

募集人員：概ね55歳以上・男女不問・3日間で延べ15人

待 遇：日当・交通費込みで7500円、弁当支給

お問合せ・募集受付：三宅島阿古会事務局長 町永 俊江(旧姓北川)

TEL:0489-96-3590/090-2621-4052

くて、棧橋でピョンピョンはね、何とか逃げようともがいています。

私は、隊員さんがせっかく釣ったのだから逃げられては大変と、あわてて手を出したとたん、『ブシュ、ブシュ』。みごとに、自分の左手首を釣りあげてしまいました。

(ひゃあ、たいへん！)

釣り針の先には、『かえし』がついていて、引き抜こうにも引き抜けません。押し出そうにも、針の先は平たく打ってあり、押し出すこともできません。

驚く隊員さんたちを棧橋に残して、あせった私は診療所へ駆け込んだのです。

診療所の医師は、都から三ヶ月間の予定で派遣された若い先生で、私の腕を見て複雑な表情。

「どうしたんですか？」

「さかなをはずそうとしたら、こうなっちゃんだんです」

「ずいぶん、器用なやり方したんですね」

「器用なって・・・。そういうわけじゃ・・・」

「さあ、どうするかなあ。これって、前にも後にも進めないって感じですよ」

だから、なんとかしてもらいたくて、来たんですけど。

「少し切って、出すかなあ」

「えっ？」

「だって、ガッチリ、はまってるでしょ」

「そうなんですけど」

先生と、どのくらいそうしていたか、そのうち島の看護婦さんがやって来ました。

「あら、駐在さんのかあちゃん、どうしたの？」

「これ」

釣り針の刺さった腕を出すと、

「なあに、自分を釣っちゃったの？」

と、大笑い。

「それで、先生は？」

「どうやって取るか・・・」

「あらあら。先生、大工道具は奥の部屋ですよ」

・・・大工道具？ 考える間もなく看護婦さんは、ペンチを持って戻って来ました。そしてペンチを消毒すると、釣り針の平たくなつた方を、パチン、パチンと切って、

「はい、これでだいじょうぶ」

釣り針を、ピンセットで、ピツピと抜いてくれたのです。

「あ・・・」

私と先生は、あっけにとられていました。そのようすがおかしかったのでしょうか。看護婦さんは、

「釣りをしていると、こうゆうこと、やるのよね。これは、釣り人の常識よ」

うーん。ようするに、私も先生も、釣り人ではなかった、ということです。

「かあちゃん、釣るのは魚だけにしなさいよ」

看護婦さんの忠告をありがたくいただいて、診療所を出た私は、はずかしくて、おかしくって、『にわか釣り人』であることを、十分すぎるほど自覚した一件です。

三宅島も、九月に待ちに待った一時帰島(三、四時間)が実施されます。

それぞれ、いろいろな思いで行かれるのですが、これをきっかけに、島の噴火活動がぐっと落ち着いてくれればいいのに、と思っています。

(ちゅうざいしよだより2001年8月発行 より
高尾警察署高尾下駐在所 かりや)

特別養護老人ホーム「あじさいの里」のいきいき健康教室

たくさんの方のご参加で、皆で楽しくげんきになりましょう！

10月 テーマ：『さわやかに老いる』

日 程	時 間	場 所	担 当
10月14日(日)	14:00～15:30	港区港南三丁目アパート集会所	宮下・福本
10月16日(火)	14:00～15:30	江戸川区小松川コーシャハイム集会所	宮下・福本
10月18日(木)	14:00～15:30	町田市市民フォーラム	宮下・福本

お問合せ先：あじさいの里 TEL：03-3459-8388

日時や場所は、変更することがありますので、事前に電話でご確認の上お出かけください

「みやけの風」へのご意見・ご要望を、三宅島支援東京センターまでお聞かせください。